

時事雑感

ロックフェラーと言えばニューヨークにあるロックフェラーセンターが有名ですが、米国の石油王と呼ばれたスタンダード・オイル創始者のジョン・D・ロックフェラーと弟(ナショナル・シティ銀行ニューヨーク創業者の一人)などによって発展した一族です。

石油業や軍事産業、金融業などさまざまな企業を傘下に収める世界的



東海メディカル プロダクツ会長 筒井 宣政

な財閥ですが、慈善事業のために1913年に設立したのがロックフェラー財団で、ドイツに握られていた基礎医学の研究の主導権を米国に引き寄せるため、1901年に設立したのがロックフェラー医学研究所です。

この研究所に在席していたアレク

チャレンジを支える力

口英世です。左手に傷害がありながらほぼ独学で医師開業試験に合格して医師となり、渡米してロックフェラー医学研究所研究員となりました。黄熱病や梅毒などの細菌学の研究で数々の論文を発表してノーベル賞の候補に3度名前が上がりましたが、第一次世界大戦の影響によ

のことですが、この指示を出したのがロックフェラー家であり、医療の発展に多大な貢献をした野口英世に対する最大の敬意の表れでした。ロックフェラー医学研究所で盛大な葬儀が行われ、日の丸と星条旗が掲げられる中でロックフェラー2世が直々に弔辞を読み、ニューヨークのウッドローン墓地に運ばれ埋葬されました。墓地の用地も研究所が購入し、英世の墓碑には「ロックフェラー医学研究所の英世は、科学の献身により、人類のために生き、人類のために死んだ」と刻まれています。

シス・カレルは血管縫合および血管と臓器の移植に関する研究で、ラン

って受賞とはならなかったようです。

前回の時事雑感でも紹介したカレルとリンドバークの人工心肺の研究も、まだ海のものとも山のものとも分らない時に支援したのがロックフェラー財団です。医療の発展には尊い犠牲とあくなきチャレンジが不可欠ですが、そのチャレンジを支える力もまた必要なのです。

トシュタイナーはABO式血液型でノーベル賞を受賞しており、後に学部生は存在しない大学院大学という特殊な形のロックフェラー大学となりますが、25人のノーベル賞受賞者を輩出しています。

この研究所に在席していたのが野

口英世は黄熱病の研究のため、アフリカに渡りますが、黄熱病に自らも罹患し亡くなりました。本来なら米国内に病原菌を持ち込まないようにすぐに火葬するところ、棺桶を嚴重に密封し、遺体はアメリカに送り届けられました。これは異例中の異例

のことですが、この指示を出したのがロックフェラー家であり、医療の発展に多大な貢献をした野口英世に対する最大の敬意の表れでした。ロックフェラー医学研究所で盛大な葬儀が行われ、日の丸と星条旗が掲げられる中でロックフェラー2世が直々に弔辞を読み、ニューヨークのウッドローン墓地に運ばれ埋葬されました。墓地の用地も研究所が購入し、英世の墓碑には「ロックフェラー医学研究所の英世は、科学の献身により、人類のために生き、人類のために死んだ」と刻まれています。